

速記録（意見発表者）

「大戸川ダム建設事業の検証に係る検討報告書
(素案)」に対する関係住民からの意見を聴く場

日 時 平成28年2月28日（日）

午後 2時00分

午後 2時36分

場 所 大阪合同庁舎第1号館（近畿地方整備局）

第1別館2階 大会議室

○意見発表者（大阪－１）

大戸川ダム検証報告書の素案について意見を述べさせていただきます。

大戸川ダムは、２００５年の５ダム方針により当面実施せずとされましたが、僅か２年後の整備計画原案で実施するに変更されました。

５ダム方針では、中流部の改修による流量増を見込んでいなかった。それを見込んだことで（大戸川ダムが）必要に変わった、と説明しております。私はこれを事実ではないと思います。

それほど、近畿地整の役人はボンクラではありません。５ダム方針の時も必死になって検討したはずです。本当はダムありきの方針がまずあり、それに理屈付けようとしたのが事実ではないかと思います。

では、どういう風に理屈付けをやったか。まず、判断基準を変えています。これまでは、ダムというのは、計画高水流量を超えたものを調節するということでした。

今回は、淀川本川がいかなる整備段階であっても、

流下能力を超えない、

計画高水位を超えさせない、

という条件を設定いたしまして、新たな判断基準としたわけです。

そうなりますと、随分、結果が変わってきます。しかも不審なことに、流下能力というのを５ダム方針では $11,000\text{m}^3/\text{s}$ でした。原案で２年の間に $500\text{m}^3/\text{s}$ 減らして、 $10,500\text{m}^3/\text{s}$ に減らしています。

こんなことをしては技術者として恥ずかしいと思ってください。ありえません、障害物でも作ったのですか。

もうひとつ、流量計算です。流量計算は、これまで枚方の基準点、１点だけで考えていました。それを支川、中上流部に増やしまして６地点でやっています。これは、それなりの理屈があります。結果として $11,600\text{m}^3/\text{s}$ が流量として出てくる。

それに対して、現況の流下能力 $10,500\text{m}^3/\text{s}$ 、これに橋梁架替により $200\text{m}^3/\text{s}$ 増やすとしています。

橋梁架替で $200\text{m}^3/\text{s}$ 増えますか。これは、近畿地整、恥ずかしいですよ。

阪神橋梁は、２．９km地点です。それを架け替えたからといって、現在、本川で流下能力が最小とされている７km地点には関係ありません。これは大きな間違いです。

一方、流量の $11,600(\text{m}^3/\text{s})$ 、これを川上(ダム)で $500(\text{m}^3/\text{s})$ 、大戸(川ダム)で $400(\text{m}^3/\text{s})$

減らす、その一方で（堤防等を）改築して（流下能力を）10,700(m³/s)にしてバランスさせる、というわけです。

川上ダムは、500(m³/s)は効きません。川上ダムで流量調節したとしても、ダムによる流量調節はピークカットです。川上ダムで（流量）調節した結果、岩倉で500m³/sに減っています。これは近畿地整の計算です。以降、減ってないんです。そんなことはありませんよ。つまり、これ整備計画といいますか、大戸川ダムがいるという案は滅茶苦茶です。整備計画も滅茶苦茶です。こういうことを考えますと、もう一度、1から出直して、考え直すべきです。

流量が増えるというのも、淀川水系流域委員会や京都府の検討会で否定されています。これに対する回答、できてないじゃないですか。今の近畿地整は、技術者として恥ずかしくないですか。恥ずかしくないですか、あなた。

これは、ねえ、とんでもないことですよ。帰ってからよく検討してください。橋梁を架け替えたからといってそんなに（流下能力が）上がりません。ダムで調節したからといって、岩倉から河口までずっと500m³/s減るとはいうことはありません。ありえないことに基づいてやっているもの、おかしいじゃないですか。

私は、淀川流域委員会の委員として、6年間、いろいろとタッチさせてもらいました。その間は具体的な数値があまりありませんでした。しかし、当時の河川管理者は、非常に情熱的にやっていました。今はこんな杜撰なことでいいんですか。あまりにもこの計画は杜撰です。

大戸川ダムはいらないのです。したがって、大戸川ダムを造らない案が最も有利です。代替案は要らないわけですから。それを捻じ曲げて、ここで造ろうとするのは、これは国民に対する犯罪ですよ。よく考えてください。特に技術者として、こういう出鱈目な事実は誰が作ったのですか。薄々は聞いています。

しかし、こういう杜撰な計画に基づいてダム計画を立ててはいけません。間違いは間違いとして潔く認めて、この計画は引っ込めてください。もう一度、どうしてもダムを造りたいのであったらやり直してください。

今の整備計画だと、流量と流下能力がバランスしません。そのバランスを埋めるためには、また新たなダムを作らないといけません。新たなダムは、現実性がありません。あるとすれば、巨椋池の復活くらいです。

そういった色々な全体的なことを考えて、この案はあまりにも杜撰ですので、素案は廃

棄して再提出をして頂きたいと思います。

以上です。